盆出しアスターの栽培

アスターは、盆・彼岸の仏花としてよく利用される花です。以前から花色は豊富でしたが、最近では花形も豊富になってアレンジや花束としても人気が高まっています。

1　栽培のポイント

（1）土壌条件は？

・浅根性のために乾燥・過湿に弱いので、耕土が深く腐植に富み、排水のよい所を選びましょう。

・連作を嫌うために、他の作目と輪作して同じ場所での栽培は4年以上あけるようにしましょう。連作する場合は、土壌消毒を徹底する必要があります。

・pH6．0～6．5の弱酸性を好むので、石灰等で調整しましょう。

（2）品種は？

先に触れた様に花色や花形・早晩性等に多様な品種があるので、それぞれ好みに合った品種を選定しましょう。アスター栽培で最も問題になる萎凋病に対する抵抗性が品種によって異なるので、そのことを考慮に入れて選定するのもよいでしょう。

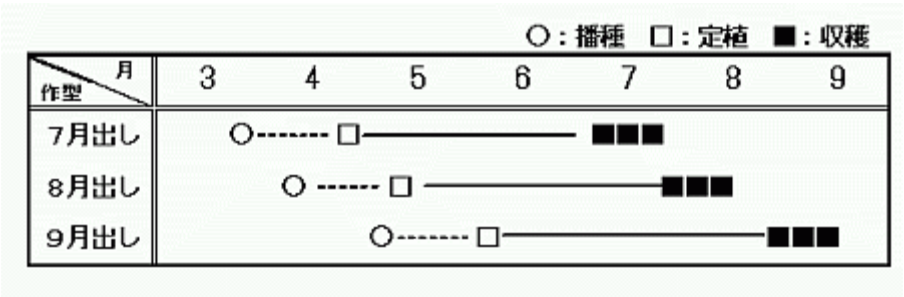
くれない系：早生～中晩生まで品種が豊富で、ボリュームに優れています。

松　本　系：くれない系よりやや早く開花し、萎凋病にも比較的強いです。

こまｼﾘｰｽﾞ：花がガーベラ様で豪華。降雨や多湿にやや弱いので施設栽培向き。

小　輪　系：花茎が1～3cm と小輪で多花。種子での販売は、ステラシリーズやネネシリーズ、苗での販売はマイクロシリーズやアレンジシリーズがあります。

（3）作型は？



（4）播種・育苗は？

・1a当たり箱育苗で 20ml、地床育苗では3割程度多めに播きましょう。

・発芽適温は 15～20℃なので、低温期での播種では保温に努め、日中は 25℃以上にならないようにしましょう。

・播種後は新聞紙などで覆い床面を乾かさないようにし、発芽しかけたら早めに取り除きましょう。

・発芽後は土の表面が乾いたら灌水して過湿にならないように注意しましょう。本葉が展開する頃までは特に徒長しやすいので、午前中に灌水して夜を迎える頃には土の表面が少し乾いた状態になるようにしましょう。

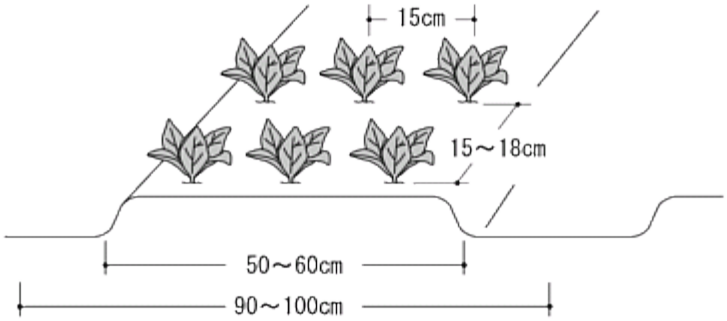
（5）定植準備・定植は？

・過湿に弱いので、転作田では特に排水対策を徹底しましょう。

・早めに苦土石灰や堆肥を施用して耕しておき、定植5日前までに基肥を施用して畝立てをしておきましょう。

・定植は本葉5枚前後で行います。老化苗になると活着が悪くなったり品質低下の原因になったりするので、遅くとも本葉 10 枚までに行うようにしましょう。

・小輪系は、図を参考に株間条間共に 15cm 程度になるよう定植しましょう。松本系など一般系のものは、それよりも広めに（20～25cm）しましょう。



・定植後は十分灌水して活着を促しましょう。

（6）施肥は？

・窒素過多になると茎葉が軟弱になり、水上げが悪くなります。
前作の肥料の残りなどを考慮して施肥を行いましょう。

施肥例（a当たり）

施肥方法	肥料の種類	施肥量（kg）
基肥	科学肥料（８－８－７）	１２
追肥	液肥（１０－５－８）	６

（7）定植後の管理は？

・倒伏しやすいので、抽台する頃までに必ずネットを張りましょう。

・乾燥すると草丈が得られないので、灌水を十分行うと共に切りワラなどを株元に敷いて乾燥防止に努めましょう。

・梅雨時期には湿害を受けやすいため、排水溝を整備するなど過湿防止に努めましょう。

・草丈 20cm の頃、追肥と同時に除草を兼ねた土寄せを行いましょう。

・ウリハムシや芯食い虫（エゾギクトリバ）・ハモグリバエ類の被害が多いので、注意しましょう。

（戻る）